



<取材のお願い>

2025年2月25日
八戸工業高等専門学校
国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）
さくらサイエンスプログラム推進本部

国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム） アジアの高校生が防災に役立つ「ものづくり」を体験 ～八戸高専の学生と共に防災問題に挑む～

八戸工業高等専門学校では、3月5日（水）～3月11日（火）、アジア3カ国5校から高校生6名、教員2名、計8名を招へいし、「国際自主探究で切り拓く防災に役立つものづくり体験」をテーマに科学技術体験プログラムを実施します。

来日するのは、テマセクポリテクニク（シンガポール）、プリンセスチュラポーン科学高等学校チョンブリー校（タイ）、モンゴル科学技術大学付属高専、新モンゴル学園高専、モンゴル工業技術大学付属高専で、理工学や土木工学、建築工学などを学ぶ学生たちです。

日本は地震大国であり、八戸地域は東日本大震災など度重なる地震や津波などの数多くの自然災害を経験してきました。また、世界では地球温暖化による環境の変化が深刻となっています。これらに起因する防災問題の克服や被災後に役立つものづくりは、地域社会の問題解決に必要不可欠です。

本プログラムは、防災に役立つものづくりを提案することにより、STEAM教育（科学、技術、工学、芸術、数学の5分野を統合的に学ぶ教育）を通じた国際的エンジニアを育成することを目的としています。

具体的には、八戸高専の教員と学生の指導の下、学内4コース（機械・医工学、電気情報工学、マテリアル・バイオ工学、環境都市・建築デザイン）でそれぞれワークショップを行い、防災に役立つものづくりを体験します。さらに、「防災に必要なこと」をテーマに日本とアジアの学生がグループディスカッションを行います。また、八戸市内の企業を訪問し、ものづくりの現場を見学します。そして、3月10日には成果発表会を行います。

本プログラムをきっかけに、異なる分野で学ぶ学生たちが学科横断的に防災に関わることで、新たな技術革新を生み出すことが期待できます。さらに、海外の学生たちと知恵を出し合いながら創造する経験をすることで、国際的エンジニアの育成や共同研究、さらには国際頭脳循環にもつながります。

本プログラムは、科学技術振興機構（JST）主催の「国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）」*に採択されたものです。

*「国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）」科学技術分野における日本と海外



の青少年の国際交流を推進する、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の事業です。一般公募プログラムでは大学等の日本の機関が作成する科学技術体験、共同研究、科学技術研修に関する青少年の国際交流計画の実施経費を JST が支援します。 <https://ssp.jst.go.jp/>



つきましては、アジアの学生がものづくりを体験する様子、日本とアジアの学生がディスカッションを行う様子、企業見学や成果発表会の様子などを取材していただきたくお願い申し上げます。なお、実施担当の吉田雅昭教授へのインタビュー取材もアレンジが可能ですので、ご希望の方は担当者までご連絡くださるようお願いいたします。

【実施内容】 ●ワークショップ「防災に役立つものづくり」 ●グループディスカッション
●企業見学 ●八戸市内見学 ●成果発表会

【実施場所】 八戸工業高等専門学校、八戸市内ほか

【研修日程概要】

3月5日（水）	午前：来日 午後：八戸へ移動
3月6日（木）	午前：開会式、オリエンテーション、キャンパスツアー（八戸高専） 午後：八戸市内見学（蕪島、館鼻公園方面）
3月7日（金）	午前：グループディスカッション 午後：合同酒精(株)見学、環境視察（下田方面）
3月8日（土）	午前/午後 ※ローテーションで実施 ワークショップ（機械・電気情報・化学） ・機構学&センサ制御（LEGO マインドストームを使用） ・牛乳からプラスチックの作成
3月9日（日）	午前： ※ローテーションで実施 ワークショップ（機械・電気情報・化学） 午後：ワークショップ（建築） ・仮設住宅の部品の設計
3月10日（月）	午前：発表準備（八戸高専） 午後：成果発表会、参加者スピーチ、閉会式、修了証交付、Farewell Party（同上）
3月11日（火）	午前：成田空港へ移動 午後：離日

■本件に関する取材申し込み・お問い合わせ先

八戸工業高等専門学校
（担当：小笠原）

■国際青少年サイエンス 交流事業（さくらサイエンスプログラム）に関するお問い合わせ

JST さくらサイエンスプログラム推進本部企画運営室
https://form2.jst.go.jp/s/kouhou_form（担当：太田）